

| | | | | | |
|-------------------|---|------|--------|------------|-----------|
| 取組名称 | まめで達者な村づくり | | | 団体設立後の経過年数 | 135年（M22） |
| 応募取組主体名称 | 鮫川村 | 活動地域 | 鮫川村内ほか | 応募取組の活動年数 | 20年 |
| 取組主体の種別 | 企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他 | | | | |
| 応募取組に関連する実行委員会特別賞 | サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞 | | | | |



| |
|--|
| 取組の要旨 |
| <p>平成16年から「まめで達者な村づくり」として、高齢者の健康づくりによる医療・介護サービス料の削減や遊休農地解消のため、大豆の栽培を奨励し村が全量買い取りを実施。生産量はここ数年微増傾向にある。平成20年からは「まめで達者な村づくり」に加え、「バイオマスヴィレッジ構想」を立ち上げ、畜産農家から産廃として排出されていた牛糞を活用し完熟有機たい肥を生産。さらに間伐材から薪を生産するなど村独自のエコシステムを確立。</p> |
| 実績の要旨 |
| <p>大豆の全量買い取りにより生産者の意欲を維持。平成16年に集荷量7.4tであったものが令和5年には24.2tになっている。生産した大豆は村直売所等において納豆やみそ、豆腐、きなこなどの商品に加工して販売。すべて職人が昔ながらの手作りにこだわっている。また、「安全・安心な農作物は土づくりから」として、牛糞やもみ殻などの未利用資源を活用して村独自に生産する完熟たい肥は、村内農家に安く販売することで化学肥料や農薬に過度に頼らない農業の推進に寄与。また、村の温泉施設で薪ボイラーを導入し間伐材を活用することでCO2排出削減にも寄与。</p> |

| | | |
|---------|-----------|--|
| 取組評価の要旨 | 環境への貢献 | 遊休農地の拡大防止による景観の維持。牛糞やもみ殻等の未利用資源の活用による産業廃棄物の削減と悪臭等を防止。 |
| | 社会・経済への貢献 | 高齢者の健康増進、介護予防。加工品開発による外貨獲得。エコシステムを学べる仕組みづくり等による関係人口の創出。 |
| | 地域資源の活用 | 畜産農家から出る牛糞や稲作農家から排出されるもみ殻、学校給食残菜などの未利用資源を活用し完熟堆肥を製造のほか、間伐材を活用した薪の製造販売も行う。また、村の高齢者の知恵を活用して大豆栽培や商品開発につなげている。 |
| | 普及・汎用性 | 取組で生まれた大豆製品等が販売され根強い人気がある。また、行政や大学などの視察も多く、本村のシステムの一部を取り入れた自治体もある。 |
| | 革新・ユニーク性 | 大豆を村が全量買い取り価格保証を行うことで生産者意欲を維持。村が完熟堆肥を生産し村内農家に安く供給。化学肥料や農薬に過度に頼らない循環型農業を確立。 |
| | 継続性 | 取り組み開始から20年が経過。国のみどりの食料戦略や国連SDGsに合致する動きのため、これからも改良を加えながら継続していく。 |

| | |
|-------|---|
| 展望の要旨 | <p>取り組み開始から20年が経過。これまでに取組に加え、今年度から新たにオーガニックヴィレッジ宣言に向けた取組を始める。また、村の環境を守り・伝え・学ぶことができるよう、生物多様性条例や水資源保護条例の策定に向けて調査・研究を行う。</p> |
|-------|---|